

# 歴史的文脈の中の国際政治理論

日本国際政治学会編

序論 歴史的な文脈の中の国際政治理論	遠藤誠治
戦間期イギリスの国際関係研究における「理論」	山中仁美
国際法学から国際政治学理論へ	篠原初枝
日本の国際政治学形成における理論の〈輸入〉	西村邦行
動く標的——慎重するリアリズムの歴史的な文脈	石田淳哉
永井陽之助と戦後政治学	酒井哲哉
日本の平和運動——思想・構造・機能	藤原修
中国における国際政治研究の展開	川島真恵
近代ジハード論の系譜学	池内道
トラスティープと人道主義	五十嵐元道
新人道主義とポスト冷戦期の世界政治	山下光
<hr/>	
〈書評〉	
オラフ・シュラム・シュトッケ著	
『国際レジームを分解する』	石井敦
瀬岡直著	
『国際連合における拒否権の意義と限界』	本多美樹
中島琢磨著	
『沖縄返還と日米安保体制』	白鳥潤一郎

## 国際政治

175